

小児 坐薬の使い方 ～その1～

挿入方法、注意点

先のとがった太い方から、ゆっくりお尻に入れます。太いところが入れば、その後はスムーズに入ると思います。無理に入れると、肛門が切れたり、腸に傷がつくこともあります。引っかかるようなら、角度を少し変えてみましょう。



乳幼児は仰向けでおむつを替える時のような体勢で、もう少し年長であれば、四つん這いや上体を預けるような体勢で足をかがめた状態で、息を吐いて楽にさせてから入れます。入れたあと少なくとも30秒程度は、肛門部を押さえておくと効果的です。

この時、入れにくかったり痛がったりするようでしたら、坐薬を肛門に当てたり、手で持って温めて少し溶かしたり（油脂性基剤の解熱剤など）するとよいでしょう。また、坐薬の先端を水につけたり、オリーブオイルやワセリン、クリームなどを塗るなどすると痛みや刺激を減らすことができます。